

第3回（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会

議事要録

日 時	平成 20 年 10 月 15 日（水）
場 所	クリーンセンター 3 階会議室
出 席	寄本勝美委員長、田村和寿副委員長、早川峻委員、越智征夫委員、石黒愛子委員、広江詮委員、橋弘之委員、金子和雄委員、佐々木保英委員、前川智之委員、村井寿夫委員、井上良一委員、事務局（環境生活部環境政策担当部長、クリーンセンター所長他）、傍聴者 9 名

金子委員：商店会連合会の金子です。1 回目・2 回目とも委員会に参加できず、申し訳ございませんでした。環境というのは苦手な分野でございますが、少しは解っているつもりですので、何卒よろしく願いいたします。

1. 前回委員会の「議題の進め方」の意見から

副委員長より今までの委員会のまとめを説明（別添：副委員長作成資料）

副委員長：具体的な技術を求められている委員会では無い。基本計画への助走期間と認識している。自主研究会として、技術の委員会と市民への広報に対して委員会を個別に持っても良いかと考える。施設の問題は焼却施設だけでなく、リサイクルセンターをどうするかを考える必要があり、私はリサイクルセンターを別の場所に作っても良いと考える。そのため施設検討の委員会と市民広報の委員会と並行して進んで行ってはと考える。近隣の熱回収やリサイクルセンターの施設及び二ツ塚処分場の視察をスケジュールに入れたい。

委員：「今後施設をどうするか」の主題に対して、大項目のテーマを明確にしたい。初回に明確に今後の流れを示さなかったのが原因だったと思う。今後、委員会を有効に進める上で必要なことかと思う。今後の検討スケジュールを提示して、まず、それを皆の共通の指針にするべきだと思う。そこで、今後の流れを決めていく前に、検討方法について提案する。次の2つが柱になると思う。施設の理想的な姿をまず、固める。建設用地が現施設の横の建替えスペースを前提としているのかそうでないのか明確になっていないようなので、用地を仮想地として、施設の基本計画を進める。「市の廃棄物処理基本計画」に中間処理施設の理想的な姿を記載してあったので、それをベースに検討を進める。まとめたものが、「施設基本構想」の検討資料であるなら

ば、その提示、説明をまず行う。そこまでに至った経緯を、「廃棄物処理基本計画」の概要説明を行いながら、わかりやすく行う。特に、建て替えの必要性については、建物の劣化度合い、修繕費の上昇、使用不能になった場合の窮状など、例を提示して、詳しく説明した方がいいかと思う。更に、ごみ処理の基本的あるべき姿については、中間処理を焼却中心に行うことの必然性、資源化分別の更なる必要性(生ゴミの資源化など)についても、更なる詳しい説明が必要かと思う。 用地の黒・白・グレー問題についてケーススタディを提示。例えば、黒：用地候補の調査からやり直し 白：建替えスペースで考慮していた条件の整備 グレー：不可とする理由、または可とする条件の整備 どのスタンスなのか、現建て替え用地について、明確にするべきかと思う。どういうスタンスでいくかの議論を、本委員会ですべて行うのは、委員会の趣旨からずれているように思う。上記ケーススタディをまず参考に提示し、現建て替え用地に対して決定権を持つ場所、協議会で意思を明確にしてもらうべきかと思う。施設の理想的姿の議論に、白とグレーのケースは条件として影響してくる。考慮すべき事項を絞り込んでいく上でも、どのスタンスか意思表示は必要かと思う。以上2本の柱を中心に、流れを作り議論していくのだが、本委員会では、1項を主なテーマとし、検討を進めていってはいかがかと思う。つまり、当委員会では市で十分に揉まれている一般廃棄物処理基本計画を中心に議論すべきであり、用地の件は別の場で議論してはと考える。また、今回の委員会メンバーだが、学識経験者は別として全員が市民代表として参加されているとの解釈でよいか。公募市民は、公募で応募したものの、他市民代表で、コミュニティ代表、商工会代表、地域代表の方は、市の中の構成団体の代表であり、且つ市民のある部分の代表であると解釈する。一部誤解されているような意見も聞こえる。もう一度、自己紹介の公開と関連して、再確認されるようお願いしたい。

委員長 : 説明について何かあるか。

副委員長 : 資料4として広報計画がでているが、この内容についてできるかぎり企画していきたいと考える。市民が、ごみ処理施設が必要と認識できるようにしていきたい。委員会を作りたいと思うが、立候補等あれば良いと思う。

委員 : 副委員長の提案について、こうやって整理していただくと良いと思う。佐々木委員の意見で用地の白黒グレーを示し、用地周辺の住民に意思表示してもらってはとあるが、中身が決まってから判断できるものと考え、私は先に用地の白黒は判断できない。前は凍結であった。

委員 : 市で作成した施設基本構想があるので、半年で決めようと考えられたと思う。これがなければこの期間では難しい。ここでごみ焼却が行われていることを市民に知らせることが第一となる。リサイクルセンターを考えると用地の大

きさも影響がでてくると思う。PRという点で市報に出したから良いという物ではないと考える。

委員 : 白黒グレーで用地は分けたが、基本スタンスをどうするのが大切と考えている。関わってきた運営協議会の意見が一番大切と思う。ごみ量も減っているので破碎選別施設もコンパクトになると考える。新しい施設は様子が変わってくるので、委員会で検討できることと、運営協議会で関わった意見がでてくると思うが、事前に図る前にスタンスを決めてはと考えた。

委員長 : 代替用地は提案されているが、場所が他であれば検討することはやぶさかではないが、他に無いので仕方がないとなっている。初めから用地を決めてかかるのは問題があると思う。現状用地で行った場合、公害防止や市民対応ができるのかも含めて決める必要があり、できなければできるよう検討することになると考える。武蔵野方式は市民参加でひとつずつ決めていくことが良いとしている。市民の反応を見ながら決めていくことが重要と思う。

委員 : 近隣市民として今は市を信頼している。そういう面から考えると現用地でと考えたかも知れない。今よりもコンパクトになって、公害が発生しない施設になるとここで無くてもよいのではと考えるようになった。そのため施設を先に検討しても良いと考えるようになった。別の場所で検討することも大事と考える

委員 : この委員会の目的は、場所を選定するのが最大の目的ではないかと考える。他の用地を探すとなったら、まったくの白紙となるが、現実的ではないと考える。30年間地域の期待を裏切らないで行ってきた市の信頼は高いと考える。そのような前提で物事を考える必要があると考える。そのため土地の選定は最優先で考えることと思う。

委員 : 私も用地を決めることは重要と考える。如何に良い施設でパートナーシップが築けても、未来永劫ここにごみ処理施設があるのかということに対して整理する必要がある。ぎりぎりの施設を作ってパンクする施設となることを市民に知らせることも大事と考える。ここの用地で受けるとしても他の市民と温度差があるままではオーケーとはならない。そのため並行することもあるのでは無いかと思う。

委員 : 町田はごみをゼロにしようとしているが、武蔵野でもできるのだろうか。市は行うつもりなのか。

委員長 : 町田市の事例は市がこうできると示したのではなく、私が取り組んだ事例として説明したもの。

委員 : 生ごみの家庭内貯留の負担増とあるが、これは新しい考え方で、構想で書かれたこういったことをすればまだまだ減らせると考えているのか教えてほしい。

委員 : 橘委員が言われたことで、運営協議会だよりは配っているのでしょうか。「グリーンセンターの建て替えをみんなで考えよう」としているがこれが一番大切なことと思います。運営協議会の20周年誌の中にあるとおり、これを無視して進むことはできないと考える。進化した市民参加が求められていると思う。市民が協力してきたからこそその市との信頼関係なので、市民の意見を尊重して意見を言わせていただく。

委員 : 土地の選定について、基本計画でも、建設当時にも建て替えの用地は東側で確保というようなことで決定し、市民委員会でやった。その時にグラウンド全面を施設にするのかと考えた。将来的なことも考えてできたと思ったが、グラウンドがあったときも砂塵で問題があったのに、今度は清掃工場となって地元は苦渋の思いをしてきた。それがまた建て替えとなるのなら、地元の苦勞も含めて、地元の交流の場とかを組み入れた施設をやるべきと考える。

委員長 : 用地の可能性は含みを残しながら、決定したわけではなく、他に良い用地があればそれも検討していくと。建てた場合どのような施設か、機能を追求することが大切と思う。

委員 : 今の東側にこだわる必要は無いと考え、野球場を含めて考えてはいかがか。いくらきれい事を言っても嫌悪施設なので住民から距離を離すと考えると今の西を東に持って行くと考えると良いのではないのか。

委員 : ごみ処理に対する施設は、ごみを燃やすことから出るものもあるが、収集車両が通行することによる交通問題もでてくる。副委員長から出たとおり、共通認識として、ごみ処理基本計画を勉強して処理施設等もあるので是非説明していければと考える。

副委員長 : 建て替えの問題は、現在の用地が最有力と思う。ただしだれでもNOという権利がある。このような場所が適地ということであれば、その土地に誠意を尽くしていく必要がある。委員会で検討したいのは、この用地が良いと決めるだけではなく、みんなで問題をシェアしていくことが大切であり、出来る限り我々が中に入って誠意を尽くす必要がある。その手だてを考える委員会としてきたい。

委員長 : 適地があれば考えていくとして良いのではないだろうか。副委員長の言われた内容で進めていくこととしよう。

2. なぜ、建て替えが必要か

事務局 : 一般廃棄物処理基本計画と維持管理状況調査について具体的な説明をしたいと考えている。また、広報に関する点についても議題として考えている。副委員長よりもありましたが施設の視察を考えている。

事務局より建て替えの必要性を説明

- 委員 : 事務局の説明では理解できない。建て替えとコストの話を整理していく必要がある。資料が判りにくい、はっきり言って欲しい。
- 委員 : 資料の内容について考え方を整理していく必要がある。体系的に判りにくいので内容の確認、添削をしていきたいと考える。
- 副委員長 : このような技術論がでてくるので、分科会で行うべきと考える。
- 委員 : 分科会でおこなうことは賛成だが、時間が厳しいので家族と相談する必要がある。スケジュールについては、別途、家族との相談も含め調整させてもらいたい。
- 委員 : 建て替えとプラントの入替えでコストの比較が判るような内容がはっきりしていない。
- 委員 : 分科会を作っていくことが重要となる。どの委員会に入りたいか意思表示をしてはいかがか。私は広報の委員会が良いと考える。
- 委員 : 用地はどのようにするか。
- 副委員長 : 用地は、分科会では難しいと考える。
- 委員 : 質問することが判らない。書いてある意味は判るので、これが駄目だということを書いてほしい。施設の委員会を希望します。

以下、各委員の希望の結果

広報計画小委員会：田村副委員長、石黒委員、橘委員、金子委員

施設研究小委員会：早川委員、越智委員、広江委員、佐々木委員、前川委員、村井委員

取りまとめ：寄本委員長、井上委員

となった。

委員長 : 詳細の内容を検討して行っていただきたいと考える。

3. 新クリーンセンター計画体系図

事務局より新クリーンセンター計画体系図の説明

事務局 : 今後、視察等の提案をしていきたいと思います。

(傍聴者の方の意見については別紙にて掲載)

了 (午後9時5分)